

我が家は安全！だから我が家で生き抜く「在宅避難」完全ガイド

～なぜ、み春野の在宅避難が失敗すると、地域全体の避難所が崩壊するのか？～

1. 被害想定と比較：み春野の圧倒的な建物安全性

「在宅避難」の基本は**「自宅が倒壊・焼失せず安全であること」**です。新耐震基準で開発された「み春野地区（1～3丁目）」は、周辺地域と比較して**建物被害が圧倒的に少ない安全な地域**です。

地域区分	総人口 (高齢化率)	全棟数	全壊予測	半壊予測	建物被害率	死者 / 重傷者
み春野地区（1～3丁目）	2,761人 (16.2%)	980棟	5棟	34棟	4.0% (極小)	0人 / 1人
こてはし台地区（1～6丁目）	5,672人 (43.1%)	2,140棟	58棟	188棟	11.5% (約3倍)	4人 / 5人
大日町・宇那谷町	783人 (42.8%)	430棟	20棟	50棟	16.3% (約4倍)	1人 / 1人

【結論】み春野の住宅は96%が無被害または軽微な被害（全壊わずか5棟）！

隣接するこてはし台・大日・宇那谷町では旧耐震木造の倒壊や屋根損壊が多発し、家を失った人々が避難所に殺到します。一方、み春野は「自宅に留まることができる」非常に恵まれた環境にあります。

2. 住民アンケート結果：高まる避難意向と「備蓄途絶」の罠

み春野住民への防災アンケートでは、**85%以上の世帯が「災害時は在宅避難を行う」**と回答しました。しかし、その前提となる家庭内備蓄の実態には重大な課題が隠されています。

アンケート調査項目（備蓄・自助力）	住民の回答割合	評価	実情と隠れたリスク
災害発生時の避難方針（在宅避難を希望）	85.4%	意識高	建物の安全性を反映し、大部分が自宅待機を希望。
非常用トイレの備蓄（7日分以上あり）	32.1% (不足67.9%)	最危険	約7割の世帯が数日でトイレ不能となり破綻する恐れ。
飲用水・食料の備蓄（7日分以上あり）	41.2% (不足58.8%)	要改善	3日分はあってもインフラ途絶の長期化（2週間）に耐えられず。
ポータブル電源・非常用電源の保有	24.5% (未保有75.5%)	注意	停電長期化による情報遮断や暗闇・スマホ充電切れ。

【危険！】「在宅避難するつもり」でもトイレがなければ3日で破綻します！

断水でトイレが流せなくなると、数日で衛生環境が悪化し、自宅にいられなくなります。備蓄不足による在宅避難の挫折が最大の落とし穴です。

3. 避難所の限界と「5年・10年後」の人口構造リスク

① み春野が在宅避難を諦めると、指定避難所（こてはし台小）がパンクする！

備蓄不足でみ春野住民が指定避難所「こてはし台小学校」（定員：1,420人／**6割運用基準：852人**）へ押し寄せた場合、避難所は即座に崩壊します。

シナリオ	み春野等の在宅流出率	こてはし台小 避難人数	6割基準（852人）比	定員（1,420人）比	避難所の現場状況
基本想定（全員が在宅継続）	0%	690人	81.0%	48.6%	安全 秩序ある避難所運営。
破綻シナリオ A（20%流出）	20%	1,074人	126.1%	75.6%	6割基準突破。廊下・特別教室まで過密。
破綻シナリオ B（50%流出）	50%	1,650人	193.7%	116.2%	完全パンク！ 受付停止・パニック。

② 人口構造の変化：20代の転出と周辺地域の超高齢化

リスク1：20代子世代の将来的な転出

現在み春野に多い20代の子どもたちは、就職・結婚等で地域を離れていきます。5～10年後、み春野は**「60～70代のシニア世帯中心の街」**へ急変します。「若い子どもに頼る避難」は不可能です。

リスク2：周辺地域の超高齢化（50%超）

こてはし台・宇那谷町等は10年後に高齢化率50%を超えます。家屋倒壊や自力生活不能となった**周辺高齢者で避難所は100%埋まり**、家が無事なみ春野住民の入る隙間はありません。

4. 地域の3主体とともに取り組む「在宅避難 3大アクション」

み春野の全世帯が家庭内備蓄を完遂し、**全員が自宅で自活しきること（在宅避難の完遂）**。これこそが、家を失った周辺地域の高齢者に避難所を譲り、**地域全体の命を守る最大の共助**です。

今すぐご家庭で準備する「在宅避難 3大チェック」

1. 「携帯トイレ・簡易トイレ」の強固な備蓄（最優先！）

断水しても困らないよう、**1人1日5回 × 14日分 = 1人あたり70回分**の携帯トイレを購入・備蓄してください（2人世帯：140回分、4人世帯：280回分）。

2. 飲用水・生活用水の2週間分確保

飲用水は**1人1日3L × 14日分 = 42L/人**（2Lペットボトル21本）。お風呂の水は常に張り、給水車に頼らない備えを完遂しましょう。

3. 自治会・自主防災組織・社協地区部会と連携した助け合い

地域活動の主体である**自治会、自主防災組織、社会福祉協議会地区部会**が中心となり、お互いの安否確認や要配慮世帯へのサポート体制を平時から構築します。

「我が家は倒れない。だから我が家で生き抜く。」

み春野の1戸1戸の備えが、こてはし台小学校のパンクを防ぎ、地域全体の命を救います。